

リウマトレックス服用中の患者さんへの インフルエンザワクチン投与はできる？

この時期としては話題が少し遅れていますが、11月頃にリウマトレックスを服用している患者さんがインフルエンザワクチンを接種しても差し支えないか？という質問がありました。

リウマトレックスは自己免疫性疾患である関節リウマチ治療における強力な免疫抑制作用のある内服薬として知られていますが、添付文書上の重要な基本的注意には次のような記載があります。

免疫機能が抑制された患者への生ワクチン接種により、ワクチン由来の感染を増強又は持続させるおそれがあるので、本剤投与中に生ワクチンを接種しないこと

一方でインフルエンザワクチンの添付文書の相互作用の項目には、リウマトレックスがらみ(免疫抑制的な作用を持つ製剤)で次のような記載があります。

免疫抑制的な作用を持つ製剤の投与を受けている者、特に長期あるいは大量投与を受けている者は免疫機能が低下しているため本剤の効果が得られないおそれがあるので、併用に注意すること

ここでおさらいですが、リウマトレックスの注意書きにでてくる「生ワクチン」とインフルエンザワクチンのような「不活化ワクチン」はどのように違うのでしょうか？

生ワクチンとは

毒性を弱めた病原体（ウイルスや細菌）で作られています。つまり、弱っていますが生きている病原体を使用します。そのため、液性免疫(γグロブリンなど)と細胞性免疫(細胞障害性 T 細胞など)の両方の免疫がワクチン接種を受けた側に獲得されます。一般に生ワクチンにより獲得された免疫はその力が強く、持続期間も長いと言われています。一方で、生きている病原体を使用するため免疫力の弱っている人に接種した場合には、その病原体の感染を増強し反って体の状態を悪化させる場合があります。

BCG ワクチン、麻疹ワクチン、風疹ワクチンなどがこれに相当します。

不活化ワクチンとは

化学的処理により病原体を死滅させた状態のものを使用します。もしくは抗原性をもつ部分を取り出してそれをワクチンとしたものを言います。インフルエンザワクチンの場合は、商品名の語尾に HA がついています。この HA とはヘマアグルチニンの略で、インフルエンザウイルスの粒子表面についている蛋白質です。この蛋白質はウイルスの標的となる人の鼻粘膜などの細胞表面に存在するシアル酸と結合することにより、ウイルス粒子と人の細胞を結合させる働きがあります。シアル酸とは糖の1種で、細胞膜に埋め込まれた糖鎖のついた蛋白質の糖の一部として存在しています。

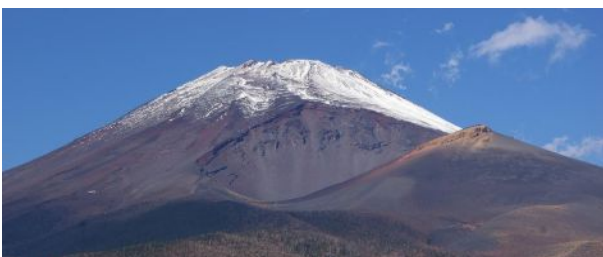
高等動物の細胞は細胞膜に存在する蛋白質が老化したり障害を受けて機能を失ったりするとそれを小さな膜で包んで細胞内に取り込み分解除去し、その代わりに新しい蛋白質を細胞膜に補給するという代謝を行っています。高等生物に備わった非常に有用なシステムなのですが、インフルエンザウイルスはこのシステムを利用してシアル酸に結合したまま糖蛋白質と一緒に細胞内にちゃっかりと入りこんでいきます。そして増殖を開始していきます……

閑話休題。この HA は人にとっては異質な蛋白質なので抗原性があり、免疫系の攻撃の対象となりえます。そこでインフルエンザワクチンではこの HA 部分を化学的に処理して取り出し製品化しています。しかしウイルスの一部分を利用した製品のため液性免疫しか獲得できないと言われており、そのため免疫力や作用持続時間(接種2週間後から約5ヶ月程度)は生ワクチンより劣るとされています。

他の製剤としては、B型肝炎ウイルスワクチン、百日咳ワクチン、日本脳炎ワクチン等があります。

以上のような知見のもとで、最初の質問に戻りますが、

- ①リウマトレックス服用中の患者さんはその作用機序からみて免疫能が落ちている可能性があり、インフルエンザワクチン HA を接種しても十分な HA 成分に対する抗体を産生できないかもしれないということが分かります。ワクチンそのものに感染力はないので生ワクチンでみられる感染性の悪影響は無いと考えられます。
- ②ワクチン効果が十分に発揮できるかどうかはその患者さんの免疫力しだいと言えますが、免疫能が落ちているということは実際にインフルエンザウイルスに罹患した場合、治りも遅く症状もひどくなる可能性を秘めているわけですから、リウマトレックス服用患者さんはインフルエンザウイルスに対してハイリスク群の患者さんとも言えます。
- ③十分な抗体ができないかもしれませんが、インフルエンザワクチンを接種しておく意義はあるのではないのでしょうか？



【 富士山の表と裏 もしくは 南側と北側 】